

動物學雜誌 第四百十三號

明治三十三年九月十五日

●日本産蝶類圖説

宮島幹之助

第八 弄蝶科 *Hesperiidae*.

大概小形の蝶にして頭部は太くして廣く、眼は大にして裸出す、觸角は短くして紡錘状をなし末端は少しく曲る、翅は短く前翅は三角形をなし後翅は丸味を帶ぶ、前翅には十二脈あり前肢は能く發達し後脛節に二双の爪あり、腹部は比較的太くして全形大に天蛾類に似たり、仔虫は短くして兩端尖り頭は丸くして短細毛を生ず、大むね葉を卷きて其中に棲み蛹化する、蛹は兩端尖らずして多少長く粗繭を造くる、

屬 *Daimio Murray*

觸角可なり長くして甚だ細く棍棒狀部の尖端は殆ど直角に曲る、下唇鬚は直立し先端に短毛あり、前翅内縁は外縁より長く中室は背縁の長さの三分の二に達せず、後翅

は微かに長く其外縁は多少波形を呈す、第七翅脈は中室前縁の少しく前にあり、雄の前翅には皺襞なくして叢毛を生ず、

百四十三 *ダイメヤウセ、リ Daimio tethys Men.*

(第廿二版第一圖)

四翅一様なる黒褐色を呈し邊縁に切々をなし白色の縁毛あり、前翅には大小數個の白斑あり時として相連りて條帶をなすとありて其紋様に差異あり、後翅には一定の紋なし、本島北海道四國等には普通にして五月より九月に至るの間多く飛翔す、

グレーザー氏によれば仔虫は淡綠色にして赤色の短毛密生す其頭は黒くして丸くカシ、カタバミの葉を卷きて其中に棲む、蛹は全面に白粉を被り多く越冬すると云ふ

屬 *Hesperia Fab.*

觸角の棍棒狀部は剛強にして其尖端は鈍なり、前翅の内縁は殆ど等長なり、中室の長さは背縁の長さの三分二よりも短し、後翅は一般に丸きも時として微かなる鋸齒狀を呈するとあり、後翅の第七脈は甚だ短くして中室先端の處に終る、

百四十四 チヤマダラセ・リ *Hesperia zana*(Mabille)

(*Syrichthus sinicus*)

(第廿二版第二圖)

四翅共に表面は暗褐色にして小白斑あり前翅には殊に其數多し裏面は茶褐色にして表面に見へたる斑紋は大きく殊に後翅の紋は一列に連りて帯をなし其外側に不判明なる黒條あり、翅の邊緣一帶は灰黄色にして褐色にて斷絶せらるる後翅には特に橙黄色の粉鱗多し、本島四國には可なり多く主に夏期現出す、

仔虫食草等未詳

百四十五 ミヤマチヤマダラセ・リ *Hesperia maera*

lata(Brem.&Grey) (*Syrichthus maculatus*)

(第廿二版第三圖)

前種に酷似すれども少しく黒し、斑紋は前種に於けるよりも判明なり、後翅には二列の紋あり、裏面には橙黄色の粉鱗少く前種に見し如き黒條なし、斑紋は皆大にして輪廓判明なり、本島の山地には普通にして夏月の候に多く飛翔す、

グレーザー氏によれば仔虫ハ九月頃イチゴ、シモツケサウ等に普通にして一様なる淡綠色を呈し白色の短毛粗生し蒼白色の粉を被ふる蛹を作る

屬 *Thanaos* Poisd.

觸角は末端に於て多少曲り下唇鬚々直なり、前翅の内縁は外縁よりも長く雄には背褶あり、中室は背縁の長さの三分二よりも短し、後翅の外縁は一樣に丸く第七翅脈は中室の先端に密接す、後脛節に總毛あり二對の爪の中前方にある一對は極めて小なり、

百四十六 オホチヤマダラセ・リ *Thanaos montanus*

(Brem.) (*Nisoniades montanus*)

(第廿二版第四圖)

可なり大なる種にして前翅表面は灰褐色を呈し濃鳶色の模様あり、後翅は黒褐色にして中に橙黄色の斑紋多し、裏面は一般に表面よりも橙黄色多く殊に前翅の前半部に於て然り、琉球以外の地には到處に普通にして多く春期に現出す、

仔虫は綠色にして竹葉を食す又カシの葉をも食すと云ふ、

屬 *Isoteinon* Felder

觸角は可なり長く其先端は鋭く尖る、前翅にありて内縁は外縁よりも遙に長く中室は背縁の長さの三分二に達せず、後翅は狭長にして第七翅脈は中室先端前に終る、雌雄の差は唯前翅の第二脈にあり、雄にては脈は中室端と翅の基部との中間にあれとも雌にては翅の基部に近くあり其他の點に於て雌雄の差異なしと稱して可なり、

百四十七 ホソハネセ・リ *Istenon lamprospilus*

Felder (*Pamphila lamprospilus*)

(廿三版第五圖)

四翅表面は暗褐色にして前翅に方形半透明の白斑あり、前角に近きは小にして三箇一列をなし大なる者は中央に列ぶ后翅表面には紋なし、裏面は橙黄色の粉鱗多く後翅に數多の小白班あり、本島四國九州には稀ならざる種にして多く六七月の候に飛翔す、

仔虫食草等未詳

屬 *Heteropterus*. Dum.

觸角は短くして背縁の半に達せず棍棒狀部は可なり長く其先端は鈍なり、下唇鬚は直立して鱗毛密生す、翅は狭

日本産蝶類圖説(宮島)

長にして大むね尖る、前翅の内縁は外縁よりも長く中室は背縁の三分二よりも短し、第十二翅脈は中室の前端に近く背縁に達す、後翅の外縁はうねらずして第七脈は明に中室先端前にあり、後脛節は殆んど裸出し腹部は長くして後翅の肛角を越ゆ、

百四十八 ギンイチモンチセ・リ *Heteropterus unicolor* (Brem. & Grey) (*Cyclorides ornatus*)

(第廿二版第六圖)

四翅表面は皆帶紫黒褐色にして紋なく裏面は前翅の中央部を除きては皆鮮なる橙黄色を呈す、後翅の中央には銀白色の幅廣き帯ありて極めて顯著なるを以て容易に他種と區別し得可し、普通ならざる種にして本島の高山及び北海道には七八月の頃に産す、

仔虫食草等未詳

屬 *Adopaea* Billb.

觸角は短くして背縁の半に達せず、棍棒狀部は殆んど直にして尖端は鈍なり前翅は前屬に於けるよりも尖り多少内縁は外縁よりも長し、中室は背縁の三分二よりも短く

三〇七

第三翅脈は中室端に達す、後翅の外縁はうねらざれども少しく第二翅脈の邊にて突出す、腹部は細くして長く後翅の肛角を越ゆ、

百四十九 ハリクロチャハネセ・リ *Adopaea stylar-*

bica (Bren.)

(第廿二版第四圖) リーチ氏
ニ從フ

全翅表面は茶褐色にして邊縁に巾廣き暗色の縁付ケを有し中央部は鮮黄色を呈す、裏面は表面よりも暗色少きも唯前翅の後縁と後翅の内縁は暗色なり、變化多き種にして黒褐色の者又稀ならず、雌は雄に比して一般に翅の大なるを以て異れりとす、本島の山地及び北海道には八月頃に産す、

仔虫食草等未詳

百五十 スヂクロチャハネセ・リ *Adopaea leonina*

(Butl.) (*Hesperia leonina*)

(第二十三版第十圖雄第八圖雄)

前種に酷似し翅表面は茶褐色なれども暗色の縁付ケは巾廣く翅脈は著しく黒し、前翅の中室には細き黒條あり後

翅にては其内縁と基部とは暗色を呈す、裏面は表面よりも遙に鮮にして美黄褐色を呈す、雄は一般に雌よりも暗色少く黄色部は紅色を帯ぶ、プライヤー氏蝶譜中に *Hesperia* sp. として記載せられしは此種の雄虫なりとす、此種は前種と混ぜらるれども翅脈の黒きを以て容易に識別し得可し、本島の山地並に北海道には七八月の候に飛翅す、

仔虫食草等未詳

屬 *Erynnis* Schrank.

觸角は短くして背縁の半に達せず、棍棒狀部は短くして太し、翅形前屬に似て前翅の背縁は弓形をなし外縁よりも長し、第二翅脈は雄にては翅の基部に近く位し中室の外縁に邊あり、後翅は橢圓形にして第七翅脈は少しく翅の基部に近く存す、

百五十一 アカセ・リ *Erynnis comma* (L.)

(*Hesperia comma*)

(第二十二版第十五圖)

翅の表面は美なる赤黄褐色を呈し翅脈は黒し、前翅の外

縁と後翅の前縁及び内縁は暗褐色なり、裏面は一般に暗色の粉鱗多く前後翅共に光澤ある黄色の横條と方斑多し、變化多き種にしし後翅裏面の紋全く白色なるものあり又全翅表面一帯に暗色を呈する變種もあり、雄の前翅にある凹は黒くして中室の外縁に位しコンマ状をなす、本島北海道には普通にして多く七八月頃にあらはる、

仔虫は灰綠色にして頭部は黒くカラスノエンドウ、ミヤコグサ等の莢科植物を食す

屬 *Pachyoma* Moore

觸角の棍棒狀部は可なり長く下唇鬚の第二節に鱗片多し前翅の内縁は外縁よりも長く中室は背縁の三分二よりも短し、第三枝脈は中室端より起る、後翅の外縁は完全にして第一翅脈の内枝と第二翅脈との間は少しく突出す或種の雄には前翅後縁に近く甚だ微かなる腺條を有する者あり

百五十二 キマダラセ・リ *Pachyoma dara* (Kollar)

(*Hesperia flava*)

(第二十二版第十一圖)

翅の表面は暗褐色にして各邊緣は色最黒く内部に茶色多

し、前後翅共に數多の鮮黄色の方斑を有す、裏面は一般に黄色にして前翅の中室部には橙黄色にして淡黄色の斑紋は翅の中央に列び全體にて耳狀をなす、琉球以外の地には極めて普通の種にして夏時到處に飛翔す、

仔虫食草等未詳

屬 *Angides* Hüb.

觸角の棍棒狀部は短くして太く、下唇鬚の第二節は粗なる鱗毛を被ふる、前翅の内縁は外縁よりも少しく長く中室は背縁の三分二に至らず第三翅脈は直に中室端前に發す、後翅にての中室先端前にあるは第七翅脈にして第五脈は追跡し難し、肛角部は少しく突出す、雄は前翅の内縁に近く長形の腺凹を有す、

百五十三 コキマダラセ・リ *Angides sylvanus* (Esp.)

(*Hesperia sylvanus*)

(第廿二版第二圖)

四翅表面は橙黄色にして翅脈は黒く、前翅の外縁と後翅の後縁は巾廣く暗色に縁付けらる殊に外縁部は黒くして縁毛は黄色を呈す、雄の前翅中室に沿ひ腺條あり、裏面

は鮮黄色にして翅脈と邊緣とは黒くして明に、後翅にては表面の黄色部は方斑としてあらはる、本島及び北海道には普通にして變化甚だ多く、夏期到處に飛翔す、

仔虫は暗綠色にして濃色の背條ありて黒點多し、頭は大にして褐色を呈しハママキ、シラゲカヤ等を食す

百五十四 ヒメキマダラセ・リ *Angiades ochracea*

(Brem.) (*Hesperia rihuchina*)

(第廿二版第十三圖)

翅表面は帶紫濃褐色にして縁毛は美黄色なり、前翅の中室は全く黄色にして中央に巾廣き橙黄色帶あり、後翅にては中央部は橙黄色にして翅脈により區劃せらる、裏面は又鮮明なる橙色にして黒色の翅脈は著しく前翅の内縁一帯は黒色を呈す、後翅には多少綠色を混じ體の下面は灰綠色なり、本島四國の山地北海道等に普通にして多く夏期にあらはる

仔虫食草等未詳

百五十五 ウスバキマダラセ・リ *Angiades subhyalina*

(Brem. & Grey)

(第廿二版第十圖) リーチ氏に従ふ

前二種よりも形大にして表面の色はコキマダラセ・リと等しきも前後翅の斑紋は大なり、而して前翅に於ける方斑は半透明にして後翅裏面の白點は極めて顯著なるを以て容易に識別し得可し、産地として北海道は已に知られたる處なるが尙リーチ氏は本島の山地にも産するならんと言はれたり

仔虫食草等未詳

屬 *Halpe* Moore.

前屬に尤近き屬にして觸角の棍棒狀部は細く鈎狀部は長し、前翅は短くして外縁は大に凸出し内縁よりも短し、中室も亦短くして背縁の三分二に達せず、第十二翅脈は中室先端前より出づ、後翅は丸くして中室は甚だ短く第七翅脈は中室前にありて其基部に於て鋭く曲る、頭部と腹部とは細小なり

百五十六 コチャバチセ・リ *Halpe varria*(Murray)

(*Pamphila varria*)

(第廿二版第八圖)

翅表面は黒褐色にして縁毛は灰黄色なり、前翅には數個

の白斑ありて中一個は中室内にあり、裏面は一般に美なる金屬様黄色を呈し翅脈は黒くして甚だ明なり、後翅は表面に全く紋を有せざれども裏面には三乃至四箇の黄色紋あり、本島九州並に北海道には可なり普通にして春と夏とに現出す、

仔虫食草等未詳

屬 *Parnara* Moore

觸角の棍棒状部は短くして強く鈎状部は短し、前翅の内縁は外縁よりも長く中室は背縁の三分二に達せず、第十二翅脈は中室端前に於て背縁に達す、上下の翅間脈は極めて小にして中脈は長し、第五脈は中室の終端より出づ、雄は前翅の後縁に後縁に近く線状の腺凹を有す、

百五十七 チャバ子セ・リ *Parnara mathias*(Fab.)

(*Pamphila mathias*)

(第廿二版第十四圖)

翅表面は暗褐色にして黄金色の粉鱗を散布し縁毛は灰色なり、前翅には數ケの灰白色の方斑あり中室前にある三個は極めて小にして點状をなす、後翅の表面には紋を

日本産蝶類圖説(宮島)

し、裏面は表面よりも色淡くして黄色多し、前翅の紋は表面に等しく後翅には四點ありて中央に列び多少出入す、北海道以外の地には極めて普通にして春夏共に多し、

仔蟲は草綠色にして頭は三角形をなし粗なる長毛を生ず食草は禾本科に屬する雜草にして透明鮮綠色の帶蛹を作る

百五十八 オホチャバ子セ・リ *Parnara pellucida*

(Murray) (*Pamphila pellucida*)

(第廿二版第七圖)

翅色は前種よりも黒く前後翅に灰白色の方斑あり、殊に後翅の紋は一直線に列ばすして多少出入す、裏面は黄色多く後翅の斑點は銀白色を呈し黒き縁取を有す、此種は翅の大きさに差異あり、琉球以外の地には普通にして七八月の候に飛翔す、

仔蟲食草等未詳

百五十九 イチモンチチャバ子セ・リ *Parnara guttata*

(*Pamphila guttata*)

(第廿二版第十二圖)

翅の色及大きさ等は前種に酷似すれども翅は幅狭くして長

く且つ後翅の方紋は一直線に列ぶを以て容易に前種と區別し得可し、本島北海道には普通にして七月頃に現出し往々成蟲のまゝにて越年す、有名なる稻の害蟲なり、

仔蟲は綠色にして短毛を生ず俗にハマクリムシと稱し稻の葉を巻きて其中に棲み之を食す

百六十 ミヤマチャバチセ・リ *Pannara jansouis*

(Butl) (*Pamphila jansensis*)

(第廿二版第五圖)

此種も亦前二種に極めて類すれども前翅表面の中室内にある斑點は斜に長し、後翅の表面には唯四點ありて兩端の點は極めて小なり、裏面には表面に見へたる四點の外に翅の基部に近く一點あり之れ前種と區別す可き點にして裏面の紋は白きも透明ならず、本島の山地に於て稀に採集せられしとあるのみ蓋し稀品に屬す、

仔蟲食草等未詳

屬 *Aeromachus* de Niceville

觸角は恰も前翅背縁の長さの半にして棍棒狀部は可なり長し、四翅共に小にして前翅は三角形を呈し背縁は直にして前角は尖り後角は丸し、内縁も亦直にして外縁より

も長く胸脈は中室前端の邊に終る、後縁の外縁は丸くして胸脈は短し、胸部は細く腹部は極めて狭小なり

百六十一 ホシチャバチセ・リ *Aeromachus inachus*

(Menet) (*Pirgus inachus*)

(第廿三版第十一圖)

小形の種にして翅表面は暗褐色を呈し前翅に白色の斑點ありて一列をなす、後翅は無紋なれども裏面には輪廓明なる數多の斑點ありて三列をなす一般に裏面は黄灰色の粉鱗を散布す、是も亦稀種にして本島の山地に夏期に現はる、

屬 *Notocrypta* de Niceville

前翅は三角形にして后縁は弓狀をなす中央の翅脈は其後にある脈よりも長くして中室は背縁の三分二に達す、後翅も亦短くして内縁は廣く胸脈は多少弓形をなす、中室は小にして之より出づる翅脈は皆中室よりも長し、

百六十二 クロセ・リ *Notocrypta curvifascia* (Feld.)

(第廿三版第三圖)

全翅は黒色にして唯前種にのみ白紋あり其中前角に近き

者は點狀にして中央にあるは大なり相列びて廣き帶狀を
なす、裏面は黒褐色にして前翅の紋は表面に向しく後翅
には蒼灰色の粉鱗を散布す、九州琉球等には春より夏に
かけて普通に飛翔す、

仔虫食草等未詳

百六十三 コモンクロセ・リ *Notorypta goto*

(Mabille)

(第廿三版第九圖) リーチ氏
に従ふ

前種と畧相等しきも暗褐色にして黒味少し、前種と同じ
く前翅にのみ白斑あり、中央帯は前種に於けるよりも短
く裏面の灰蒼色の粉鱗は少し、稀品にしてマービル氏曾
て之を本邦より得たるとあるのみ、

仔虫食草等未詳

属 *Ismene* Swainson

觸角の棍棒状部は短くして柄部の三分一にすぎず末端は
尖れども鈎状に曲らず、前翅の内縁と外縁は畧同長にし
て中室は背縁の半を少しく越ゆ、第十二翅脈は中室前端
に至る、後翅の中室は甚だ短くして翅長の三分一に達す

日本産蝶類圖説(宮島)

るにすぎず外縁はうねれども明なる葉片をなさず、

百六十四 キバネセ・リ *Ismene aquilina* (Speyer)

(*Pythararia chrysaeglia*)

(第廿三版第七圖)

四翅皆黄褐色にして翅の基部に黄色の粉鱗多し、外縁は
暗色にして縁毛は黄灰色なり、裏面は表面よりも色淡く
前翅の第一第二第三間室内に淡橙黄色ありて多少斑紋状
をなす、七八月の候には本島並に北海道に普通なり、

仔虫食草等未詳

属 *Rhopaloscampa* Wallengren.

前属に似たれども觸角は前属に於ける如く太からず且つ
長き柄を有す、前翅は亞三角形をなし雄には腺條なし、
内外縁は殆んど同長にして中室は胸脈の三分の一よりも
長し、後翅の肛角部は著しく葉状に突出し全く第五脈を
欠く、

百六十五 アオバセ・リ *Rhopaloscampa benjamini*

(Guerin) (*Ismene benjamini*)

(第廿三版第一圖)

本邦産弄蝶科中最大の種にして全翅表面は帶紫黑色を呈し基部には灰綠色の長毛を生じ甚だ美なり、又縁毛は灰黄色なれども後翅の肛角より外縁の半にある毛は美なる橙紅色を呈し著しく長じ、裏面は一般に金屬様綠色にして翅脈は黒くして甚だ顯著なり後翅肛角部は橙紅色にして其内部は眞黑色なり、本島山地に於て七月の候樹花を見舞ひ、九州及び琉球にては春夏共に多く飛翔甚だ迅速なり、

仔虫食草等未詳

屬 *Hasora* Moore

觸角は *Ismene* 屬に似たれども尖端曲りて鈎狀をなす、前翅の内外縁は殆んど相等しく中室は胸脈の三分の二よりも短し第十二翅脈は中室前端に於て背縁に達し後翅の後角は多少匙形に突出し第七脈は第八脈よりも第六脈に近く走る

第百六十六 ビロウドセ・リ *Hasora chromus* (Cram)

(第廿三版第二圖常形第廿二版九圖變種)リーチ氏に從ふ

表面は天鵝絨黒褐色にして縁毛は黃褐色なり體より翅の

基部に金屬色の長毛を生ず、裏面は暗褐色にして多少銅色を帶ぶ、前翅表面には紋なきも裏面に於て前翅の前角に極めて微かなる後翅の中央には巾廣き蒼白色の條帶あり、殊に後翅の肛角は黒くして毛多く白帶は前縁より玆に到る、變種は(第廿二版第九圖)前翅表面に二小點を有し後翅裏面の白帶は微かなり、此種は熱帶地方の蝶にして本邦にては琉球にのみ産し春夏の候左迄少からず

仔虫食草等未詳

附言 先にヒリツピンテウ(*Catopsilia philippina* Cram)

を得ざりしを以て圖說する能はざりしも之を得たれば第二十三版に掲げたり讀者之を諒せよ (終り)

●輓近進化論の趨勢 (承前)

高橋堅抄譯

二、原由的變異(つゝま)

再說す有性生殖の方法には二行爲あるとを一は眞の生殖的動作にして細胞分裂によりガメートと稱する單核個體